

課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>段落相互の関係や登場人物と情景を照らし合わせて読み取る。</li> <li>感情表現を表す言葉を用いて、起承転結の整った文章を書く。</li> <li>既習漢字を確実に定着する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章構成図を用いて学習したり、叙述をもとに登場人物の心情を考えさせたりする学習に取り組む。</li> <li>作文用紙に書く前に、イメージマップを用いて事象と自分の気持ちを書きだす作業を設け、「はじめ・中・終わり」で文章を書く。</li> <li>チャレンジタイムで読み・書きの反復練習を行い、定期的に漢字小テストを実施し、習熟を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り返し指導することで、叙述を根拠に自分の考えをまとめることができた。</li> <li>タブレットを活用して作文を書くことで、手直しが容易になり、構成を意識した作文を書ける児童が増えた。</li> <li>定期的な漢字小テストの結果、既習の漢字が確実に定着した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の資料から読み取ったことを関連付けて考える。</li> <li>既習事項を確実に定着する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み取る視点を明確にして資料を読み取り、それらを電子黒板に提示し、比較して考えをまとめる学習活動を適宜取り入れる。</li> <li>既習事項の確実な定着のために、チャレンジタイムでベーシックドリルに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り返し学習することで、グラフの読み取り、比較して検証するなどの手順に慣れ、児童が自分の考えをまとめることができるようになった。</li> <li>単元後半にノートにまとめる時間や映像教材での復習の時間を取ることで、児童に学習内容が定着した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>公式や計算の仕方を理解し、文章問題を正しく立式して解く。</li> <li>様々な解決方法があることに気付き、その都度速く正確にできる方法を選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャレンジタイムで既習事項を復習したり、少人数算数で習熟度別の学習体制を整備し、個々の習熟度を把握する。</li> <li>課題に対する様々な解決方法を紹介し、それぞれを比較し、利点などを確認する学習に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>題意を正確にとらえ、正しく立式できるようになった。</li> <li>計算の間違いに気付けない児童が数名おり、繰り返し計算の練習をする必要があった。</li> <li>互いの考えを説明したり、聞いたりする活動を継続的に行うことで、様々な解決方法があることを理解できた。場合によって、公式を使い分けて活用するまでには至らなかった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>実験結果を正確に書くことができる。結果をもとに分かったこと（考察）を自分の言葉で書き表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験結果と考察を書く時間を十分に確保する。また結果と考察を別々に板書することで、表現の違いに気付くよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的に指導したことで、結果と考察の違いに気付き、自分の言葉でまとめることができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>リコーダーや鍵盤ハーモニカの演奏では、息遣いに気を付けて、きれいな音で演奏する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別指導や友達のを聴き合う活動を通して、音を聴きながら演奏し、音楽の拍の流れを感じながら演奏する。</li> <li>基本的な奏法を生かして音楽づくりができるよう、友達と協力して作品をつくったり、演奏したりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会のマーチングでは、互いに音を聴き合いながら合奏し、マーチングを完成させることができた。</li> <li>音楽づくりにおいては、リコーダーや鍵盤ハーモニカの演奏技術の習得度によって差が見られ、各学年の発達段階に応じて、技術を丁寧身に付けさせる必要性を感じた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマに合わせて表現技法や、道具・材料の使い方を工夫できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童にとって身近でつくるもののイメージを持ちやすく、かつ広い表現の幅を受け入れられる題材を設定する。</li> <li>個々のつくりたいイメージを把握し、制作中に細目に声掛けを行い支援する。道具の使い方以外の制作方法については任せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童にとって身近な題材を設定することで、自分のつくりたい作品のイメージをもって活動することができた。また、イメージしたことを表現する過程で、試行錯誤する大切さを意識付けられた。</li> <li>児童の思いに耳を傾けたり、進度に寄り添った声掛けを行ったことで、主体的に活動することができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活に興味関心をもち、主体的に学習する。</li> <li>自分の家庭生活と併せて考えたり話し合ったりすることを通して、実践に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題提示では児童の生活経験を題材にし、主体性を養う。</li> <li>児童の実態を把握し、それに即した課題を提示する。また、ICT機器を活用し、基本的な技能を視覚的に捉えさせ、児童全員に確実に身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入で、日常生活に近い話題を提供することで、児童が興味・関心をもって授業に取り組むことができた。</li> <li>ミシンの使い方や調理器具の使い方等、個別に指導したり、グループで教え合ったりすることで、児童の技能が向上した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲームの結果をもとにチームの課題や特徴を考え作戦を立てる。</li> <li>チームの学習では、認め合ったり、励まし合ったりすることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲームごとに作戦を立てる、振り返りをする時間を確保する。また、タブレットを使って、自分たちの動きを見たり、手本の動きを見たりできるようにする。</li> <li>学習の振り返りの時間でよい動きを紹介し、見るポイントや声かけの具体例を示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動量の確保に比重を置きすぎ、振り返りの時間を十分に確保しなかった。そのため、反省点を次に生かすことができなかった。</li> <li>単位時間ごとに、技能の向上や学習態度の良さを具体的に伝えることで、全体的に体育学習に対する関心・意欲が高まった。</li> </ul>